

赤ちゃんの育て方

第11回目

さくら・さくらんぼ保育園創者斎藤公子の子育て；その継承と発展

とき；2020年1月25日（土）受付開始 8；30～終了 16；00（予定）

- ところ：吉川保育園 埼玉県加須市騎西 352 - 2 （駐車場あり）
- 参加費：1人参加 6,000円 家族参加 7,000円
 - ◇ 現地にて集金 定員 50名
 - ◇ 講師 前田 綾子（くさぶえ保育園 園長）



生後7ヶ月 手支持の姿勢から這い這い



生後6ヶ月児。ずりばいはまだできないが腕立てをして、足の親指で床を蹴る。このまま前に行きたいがバックしてしまう。

『ヒトが人間になる』

太郎次郎社より



ヒコーキのような姿勢：手支持の姿勢とヒコーキの姿勢は「対」の関係にあることが多い。前に出たい気持ちが強いがまだ移動できない。この時期保育は横や後ろから声をかける。



お申し込み メール saitama.rhythm03@gmail.com

FAX 058-389-2065

お問い合わせ先： 090-4446-9663(前田)

主催 斎藤公子保育自然学校

9:30~12:00

- ① 歌 ② 個別の赤ちゃん体操の紹介
- ③ 1・2 歳児のリズムあそびの紹介

13:00~16:00

- ④ 1・2 歳児の絵(子どもの描画と集団保育)
(1・2 歳児の子どもの描画をもってきてください。どんな紙に描いたものでもいいです。)
- ⑤ 振り返り グループ討議

「赤ちゃんにスマホの動画を見せると泣き止む…」**見せても大丈夫？****このことについて考えてみましょう。****大事な赤ちゃんが人体実験にされてもいいのでしょうか？**

なぜリズムあそびをするの？ リズムあそびで保育の可能性が広がる

1. 発達の順序を飛び抜かした子ども

0 歳の時期に這い這いなどをしないで歩いてしまった子について、その時はやらなかったけれど、リズムあそびの中に赤ちゃんの発達の順を追っているものがある。やらないまま育ってしまっても後からリズムあそびや保育の中で補うことができる。

2. 赤ちゃんのカラダの特徴で心配なことがある。

バランスが悪い・筋肉が柔らかすぎる・関節がかたい・運動不足など…で乳児期を過ごしてしまった子に対して、必要な動きをやってみよう。歌やピアノに合わせて楽しくカラダを動かすことで発達を促すことができる。

3. 生物の進化の歴史から子どもの育ちを考える。

リズムあそびの内容には生物の進化の歴史を踏まえた科学的な視点が多く含まれている。

4. 障がい児の早期発見早期対応

障がいをもって生まれた子どもへの対応が可能。生物の進化の歴史は魚類⇒両生類⇒爬虫類⇒哺乳類この進化の歴史の学習によって子どもの障がい特性へのアプローチの道が開ける。

5. 脱力(弛緩)を促す

ゆったりした動きで息を吐きながら脱力を促す運動や、赤ちゃんへの金魚運動は緊張をほぐす。最近の反りの強い子どもや寝返りの時期が早い子どもへの対応ができる。

6. リズムあそびは保育士自身の運動不足やカラダのゆがみをとる。

乳児担当になると運動不足になったり、赤ちゃんを抱える姿勢から腱鞘炎や腰痛になったりするのを予防できるような運動が含まれている。

7. 赤ちゃんから高齢者までが無理なく楽しく参加できる。

リズムあそびには「あそび」という言葉がついているように、訓練のような体操ではなく、楽しくやることに重点をおいている。楽しいから毎日やりたくなる。

8. 楽しいから毎日やりたくなる。

1 歳の子どもがリクエストしてくるのでそれに応えながらリズムあそびの構成を考える楽しみがある。

9. ピアノがなくても、歌いながらできる。

10. 狭い場所でも工夫次第で楽しいリズムができる。

保育士が柔軟に創造力を働かせることでリズムあそびが楽しくなるし、保育が楽しくなる。

11. 園の行事にも工夫次第でそのままつかえる。

12. ヨガや美容体操のような動きがあるので保育士のスタイルがよくなる。

- ◆ リズムあそびをするので動きやすい服装で、また素足でやります。
- ◆ お弁当、飲み物は持参してください。
- ◆ 2 歳児までの絵をもってきてください。子どもの描画を見て学びます。